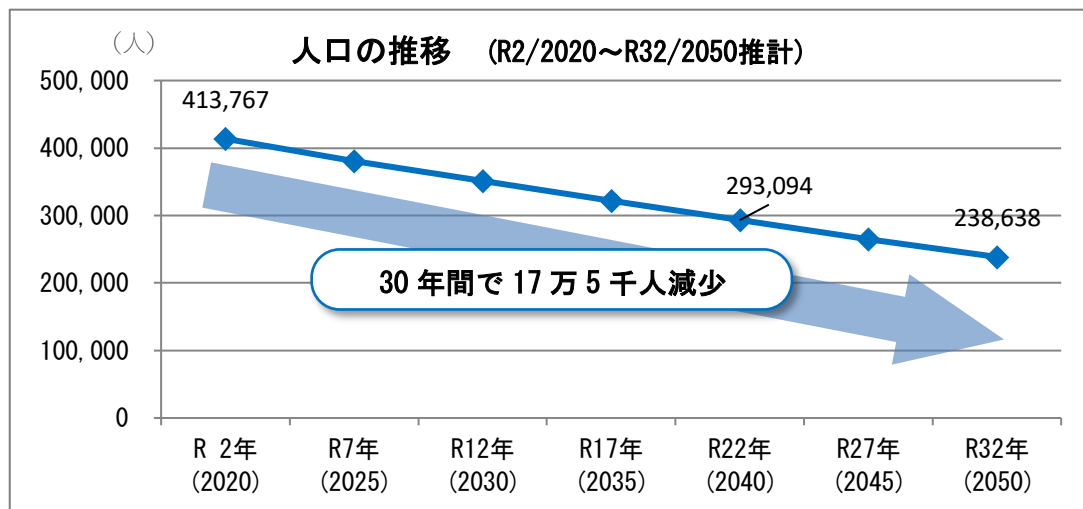


圏域の概況

1. 人口の推移

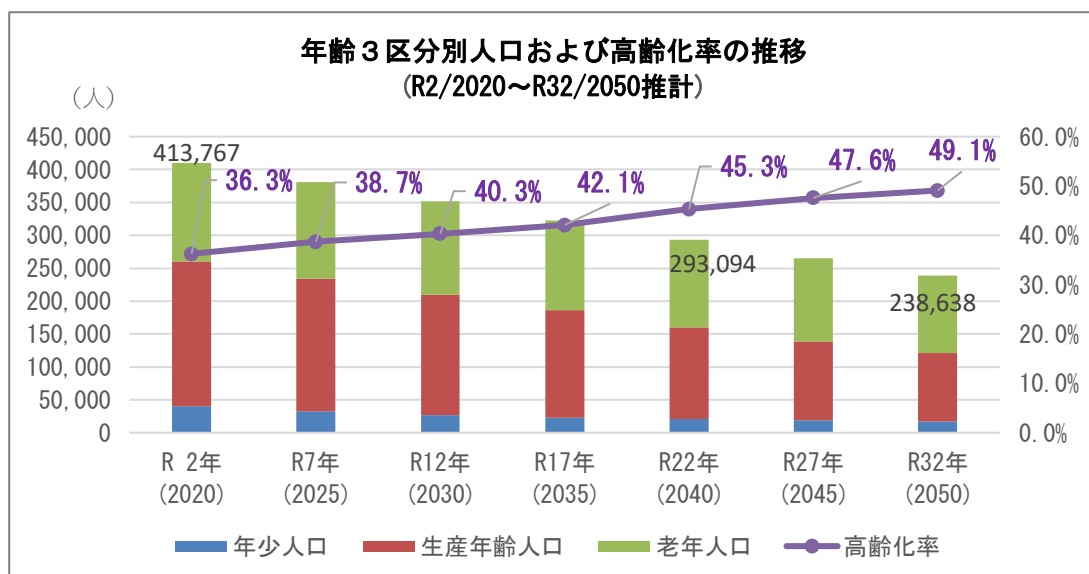
当圏域の人口は、減少傾向にあり、平成 27 年（2015 年）と令和 2 年（2020 年）の国勢調査結果での比較において、28,901 人減少(6.5%減)しています。また、国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の地域別将来推計人口(令和 5 年推計)」によれば、令和 2 年(2020 年)に 413,767 人だった当圏域の人口が、30 年後の 令和 32 年(2050 年)には 238,638 人に減少（42.3%減）することが見込まれるなど、人口減少による地域コミュニティの維持や地域経済の衰退が大きな課題となっています。



資料：国勢調査(2020)、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」(2023)

2. 年齢別人口の推移

人口が減少を続ける中において、老年人口の増加と生産年齢人口の大幅な減少が見込まれており、交流人口の拡大など、地域経済を維持させるための取組が急務となっています。



資料：国勢調査(2020)、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」(2023)

経済・産業等の状況

No	分野	現状
1	農業	稲作・野菜・花き・果樹・酪農・畜産など多様な農業が展開。道南地域で品種開発された米の「ふっくりんこ」は地元飲食店や学校でも活用されるなど、北海道でも代表される米に育っている。
2	水産業	日本海・太平洋・津軽海峡の三海域に面し、漁船漁業や採介藻漁業、養殖漁業、定置網漁など多種多様な漁業が営まれているほか、資源の持続的利用を目的とした「つくり育てる漁業（栽培漁業）」の振興として、種苗放流が行われている。
3	林業・木材産業	スギ・ヒバ・ブナ等が生育しており、人工林を主体として計画的な植林や間伐などが行われている。木材産業分野においては、地元産のトドマツやスギなどを活用した各種木材・木製品が生産されており、ブランド化や公共建築物の木造化などによる地域内での需要拡大に向けた取り組みも進められている。
4	商工業	商業においては、小規模事業所が多く、経営者の高齢化・後継者不足などの課題もあり、企業・事業所数は減少傾向となっている。工業においては、檜山地域においては建設業の生産額が多くなっているほか、渡島地域においては半導体製造や設計・開発、半導体製造装置等の集積がある。
5	ゼロカーボン	太陽光、地熱、水力、風力といった豊富な再生可能エネルギー資源の活用に向けた脱炭素の様々な取り組みが各地で進められている。奥尻町・厚沢部町は脱炭素先行地域に選定されたほか、松前・檜山沖の洋上風力が促進区域に指定され、今後の地域産業振興と雇用創出が期待されている。
6	観光	多彩な観光資源を有し、入込客数は増加傾向。都市部を中心にクルーズ船の寄港等で来訪者が増加しており、檜山地域は歴史文化や自然景観を生かした観光地づくりを推進している。
7	社会福祉	少子高齢化と人口減少が全道平均を上回るスピードで進行しており、檜山地域では高齢化率が特に高い。医療・介護・予防・住まいを一体的に支える地域包括ケアシステムの構築や、少子化対策の強化を図っている。
8	保健・医療	函館市に高度医療機能が集積する一方、周辺部は医師不足・医療機関の偏在が課題。市立函館病院を中核とした医療ネットワークやドクターヘリの運航など、限られた医療資源を効果的に活用する体制づくりを推進している。
9	教育・文化	函館圏公立大学広域連合が運営する「公立はこだて未来大学」をはじめとする大学、短期大学等の高等教育機関を有し、道内はもとより、全国から多数の学生が集まり学んでいる。道内で最も早く開けた地域であることから、史跡や重要文化財などが多く、豊かな歴史文化資源が継承・活用されている。
10	交通・運輸	鉄道、港湾、空港による陸海空の交通結節点を形成している。公共交通はJRの廃線に伴う路線バスやデマンドバス、タクシーで維持されている地域もあり、防災対策を含め道路網の整備が課題となっている。
11	防災・消防	大規模災害の経験を踏まえ、関係機関の連携体制を強化。ドクターヘリとの連携による救急医療体制の強化や消防団員の確保など、消防・救急体制の充実を推進している。
12	国際交流	多様な文化を受け入れてきた歴史があり、姉妹都市交流等が継続されている。函館空港への台湾定期便等を背景に訪日外国人客が急増し、多言語情報発信が強化されているほか、在住外国人の増加に対応し、多文化共生の推進や受入体制の整備が進められている。

※ 渡島総合振興局「渡島の現況」、檜山振興局「檜山の概況」（各2026年3月発行）をもとに作成